埼玉高速鉄道線工事誌

(鳩ヶ谷~浦和美園間)

平成13年12月

日本鉄道建設公団関東支社

埼玉高速鉄道線工事誌

(鳩ヶ谷~浦和美園間)

日本鉄道建設公団関東支社

埼玉高速鉄道線は、近年急速に都市化が進み、埼玉県下における人口急増地域となった川口市、鳩ヶ谷市及びさいたま市東部地域(旧浦和市)における首都圏方面への通勤・通学の輸送力増強のため、営団地下鉄南北線の延伸として計画された赤羽岩淵駅と浦和美園駅とを結ぶ 14.6 kmの路線であり、昭和 60年7月の運輸政策審議会(現在、国土審議会と改称)答申第7号の中で「早急に整備するべき路線」と答申を受けた後、平成4年3月に自治体などの出資で設立された第3セクター「埼玉高速鉄道株式会社」により事業化されることになった路線であります。

鉄道建設公団が主体となって施工いたしました P 線対象工事は、ほぼ中間に位置する鳩ヶ谷駅終端より浦和美園までの延長 8.4 kmであり、このうち公団直接施行の区間は、鳩ヶ谷駅終端から浦和美園駅始端までの延長 8.1 kmであります。また、起点側赤羽岩淵~鳩ヶ谷間(6.2 km)は、第3セクター都市高速鉄道建設補助金の対象となり、事業主体である会社が自ら建設主体となり、帝都高速度交通営団への委託工事として建設されました。

大都市圏の鉄道新線の建設は、地下構造物が多いことや関係地権者が数多いことから、多大な資金と期間を要します。

そのような中、当支社では、都市鉄道工事の経験を生かし、支社内にいち早く「プロジェクト・チーム」を編成し、短期間で用地交渉を完了させるとともに、綿密な施工計画を建て、あらゆる問題点を克服するなど、関係職員の懸命な努力と地元関係者の絶大なご協力を得て、無事開業の運びとなったものであります。

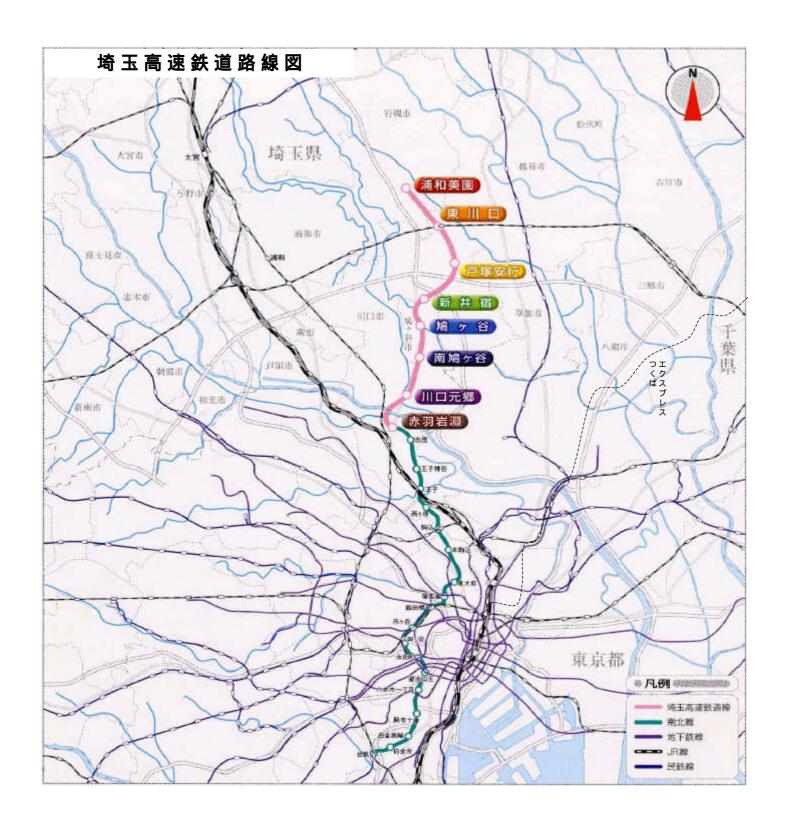
今回の開業について、利用者をはじめ関係の皆様からご好評を頂いていることは、建設に携わったものとして大きな喜びを感ずるとともに、約束の工期と建設費を守ることの重要性と達成感を改めて実感することができました。

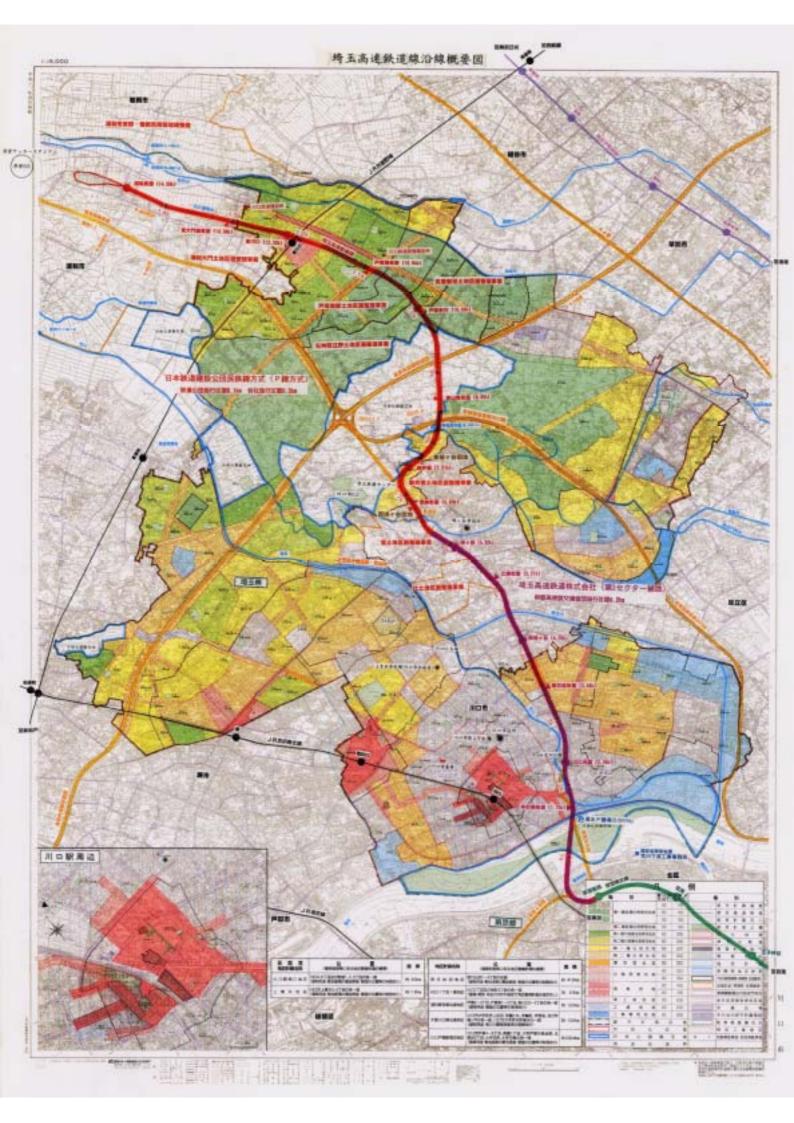
本工事誌は、職員が業務の合間に原稿を作成し短期間でまとめたものであり、今後、都市部の鉄道建設の業務資料として大いに参考になるものと思います。

埼玉高速鉄道線の建設にあたり、御協力を頂いた関係機関や建設に従事されました方々に深甚なる謝意を表するとともに、埼玉高速鉄道線がより多くの方に愛される基幹鉄道として、地域に定着することを心から祈念いたします。

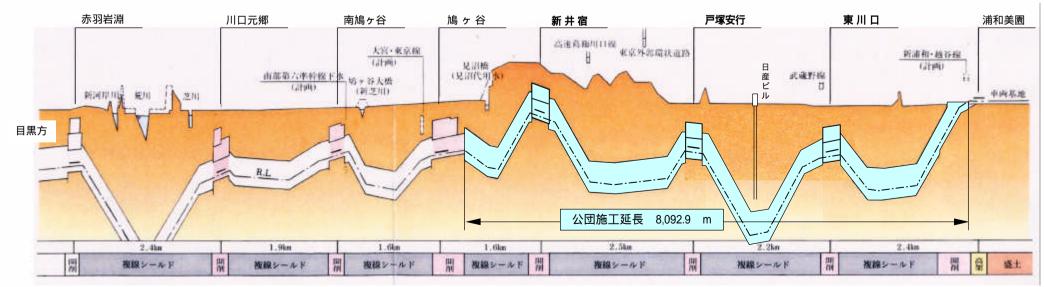
平成 13 年 12 月

日本鉄道建設公団関東支社 支社長 奥田 庸





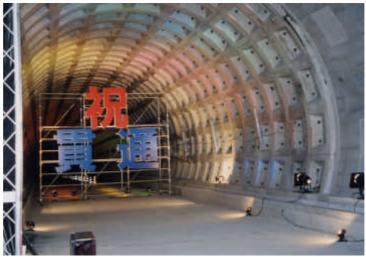






起工式 塩田澄夫総裁:平成7年7月13日(1995)





シールドトンネル貫通式:平成11年11月19日(1999)



レール締結式:平成12年8月24日(2000)



試運転 新井宿駅:平成 12 年 11 月 15 日 (2000)



トンネルウォーク: 平成 13年2月12日(2001)



施設譲渡式 豊田実総裁:平成13年3月27日(2001)



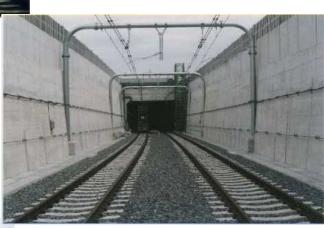
開業式 豊田実総裁: 平成13年3月27日(2001)



開業発車式:平成13年3月27日(2001)



シールドトンネル (平板・中子型セグメント)



大門開削トンネル及びU型擁壁



国道 122 号線



東川口駅付近(JR 武蔵野線交差)



シールド機



シールド内の導水管敷設



シールド到達



開削駅ホーム階



新井宿駅ホーム



新井宿駅休憩コーナー





新井宿駅出入口(コンコース階)

エスカレーターと階段との間にエレベーターを設置し、利便性を向上させている。このエレベーターは、地上部のレイアウトを考慮して通り抜け方式となっている。



戸塚安行駅改札口



戸塚安行駅レリーフ



戸塚安行駅駅前広場(夜景)



東川口駅出入口



東川口駅改札部



東川口駅ホーム階段